



【感染症だより】

～突発性発疹について～

赤ちゃんが生まれて半年もすると、胎内で母親から移行した免疫物質が枯渇し、風邪など様々な感染症にかかるようになります。1歳位になれば自前で免疫物質を作れるようになりますが、それまでの0歳期間は特に感染症にかかりやすい時期と言えます。突発性発疹はこの時期に初めて出るお熱として多い疾患です。突然39-40℃の高熱が出て2-3日続き、解熱してから全身に赤い発疹がでます。突発性発疹の原因はヒトヘルペスウイルス6型(HHV-6)や7型(HHV-7)というウイルスが飛沫感染することによります。これらのウイルスによって高熱や発疹の症状が出ます(顕性感染)が、20-40%の人は不顕性感染といって無症状のうちに免疫を獲得します。0-1歳のうちにほとんどの子供に感染しますが、遅くとも3歳くらいまでに罹ります。症状は高熱や発疹のほか、便がゆるくなったり、風邪症状を伴ったり、大泉門が膨隆したりします。また、高熱に伴って熱性けいれんを起こすことがあります。熱性けいれんは、高熱が出る直前や、熱が上昇するとき、高熱のときに起こります。突然に意識がなくなり、白目をむいたり、体が硬直して突っ張ったり、ガクンガクンしたりします。数分でけいれんが止まって、意識が清明になる場合にはほとんど心配ありませんが、24時間以内に繰り返しけいれんしたり、けいれんの持続時間が長い場合、意識の覚めが悪い場合には脳炎や脳症の可能性もあります。この場合には入院治療が必要となります。突発性発疹は、インフルエンザウイルスと並んで特に熱性けいれんを起こしやすいタイプのウイルスです。神経に影響を及ぼすなんらかの特性があるようで、解熱してから発疹が出ている時期にもとても不機嫌になるのが特徴的です。不機嫌は発疹が消えるとともに数日で改善します。

表：6月しみず小児科・内科クリニックで検出された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	43
2	溶連菌	15
3	突発性発疹	13
4	アデノウイルス咽頭炎	2
5	アデノウイルス胃腸炎	1
6	おたふくかぜ	1
7	水ぼうそう	1
8	マイコプラズマ	1

文責： 清水マリ子

